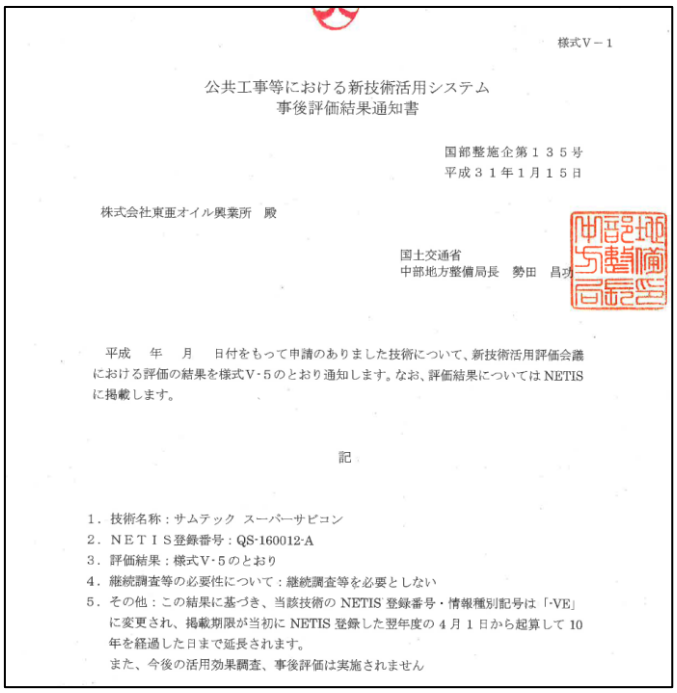
鉄筋防錆剤「スーパーサビコン」に関するお知らせ

弊社の「サムテック　スーパーサビコン」は、全国での使用実績を国土交通省に評価され、NETIS 登録が VE 評価を取得しました。

これにより、工事成績評定での調査表提出が不要となり、事後評価の必要がなくなりますので、施工後の事後処理が軽減されます



様式Ｖ－１

公共工事等における新技術活用システム
事後評価結果通知書

国部整施企第１３５号
平成３１年１月１５日

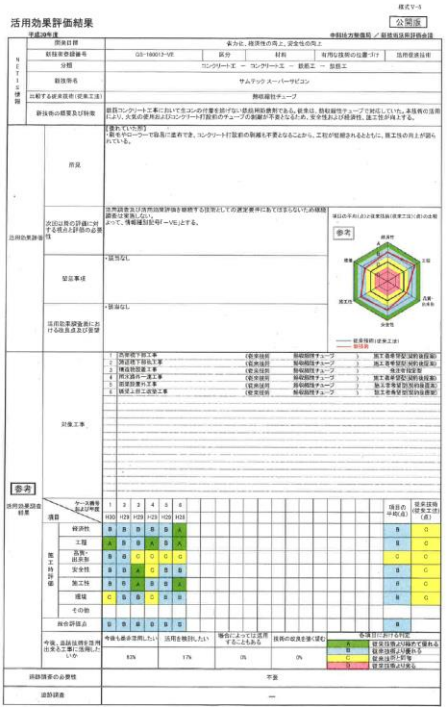
株式会社東亜オイル興業所　殿

国土交通省
中部地方整備局長　勢田　昌功

平成　　年　　月　　日付をもって申請のありました技術について、新技術活用評価会議における評価の結果を様式Ｖ-５のとおり通知します。なお、評価結果については NETIS に掲載します。

記

1．技術名称：サムテック スーパーサビコン
2．ＮＥＴＩＳ登録番号：QS-160012-A
3．評価結果：様式Ｖ-５のとおり
4．継続調査等の必要性について：継続調査等を必要としない
5．その他：この結果に基づき、当該技術の NETIS 登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、掲載期限が当初に NETIS 登録した翌年度の４月１日から起算して 10 年を経過した日まで延長されます。
また、今後の活用効果調査、事後評価は実施されません



様式Ｖ-５

活用効果評価結果

公開版

平成29年度

中部地方整備局 ／ 新技術活用評価会議

NETIS情報	開発目標	省力化、経済性の向上、安全性の向上
	新技術申請番号	QS-160012-VE　区分　材料　有用な技術の位置づけ　活用奨励技術
	分類	コンクリート工 － コンクリート工 － 鉄筋工 － 防錆工
	新技術名	サムテック スーパーサビコン
	比較する従来技術（従来工法）	無機錆止チューブ
	新技術の概要及び特徴	鉄筋コンクリート工事において生コンの付着を妨げない鉄筋防錆剤である。経済性、防錆耐性チューブで対応していた。本技術の活用により、火気の使用およびコンクリート打設前のチューブの剥離が不要となるため、安全性および経済性、施工性が向上する。
活用効果調査	所見	【要約（ていたい）】 ・塗布やローラーで容易に塗布できる。コンクリート打設前の剥離も不要となることから、工程が短縮されるとともに、施工性の向上が図られている。
	次回以降の評価における視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての適度要件に当てはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。
	変位事項	・該当なし
	活用効果調査における改良点及び要望	・該当なし
参考	対象工事	1 防草吹付施工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 施工基準変更(説明会開催) 2 法面吹付施工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 施工基準変更(説明会開催) 3 構造物設置工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 構造物設置 4 河川護岸一覧工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 施工基準変更(説明会開催) 5 防災設備外工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 施工管理変更(説明会開催) 6 橋梁上部工設置工事 / 従来技術 / 無機錆止チューブ / 1 施工管理変更(説明会開催)

参考

活用効果調査結果

項目	ケース番号及び年度	1 H30	2 H29	3 H28	4 H27	5 H26	6 H25	項目点平均点	従来技術（従来工法）(点)
施工性向上	経済性	B	B	B	B	B	A	B	C
	工程	A	B	B	A	B	A	B	C
	品質・出来形	B	B	C	C	C	C	C	C
	安全性	B	B	A	C	B	B	B	C
	施工性	B	B	A	B	B	A	B	C
	環境	C	B	B	C	B	B	B	C
	その他								
総合評価点		B	B	B	B	B	B	B	

今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も継続活用したい	活用を検討したい	場合によっては活用することもある	技術の収束を望む結果
	83%	17%	0%	0%

総合評価	内容
A	従来技術より格段に優れる
B	従来技術より優れる
C	従来技術と同等
D	従来技術より劣る

継続調査の必要性	不要
追加調査	－

以上